

環境科学同窓会通信 第 17 号

Environmental Science Alumni Newsletter Vol. 17

\*\*\*\*\*

目次/Content

1. 「歓喜の夜」  
本多 健太郎（国立研究開発法人 水産研究・教育機構 主任研究員）
  
2. 「これからのインフラ整備における地球環境の重要性」  
鈴木 裕太（日本海洋コンサルタント株式会社）
  
3. ”Hokkaido University gave me wings to fly”  
Kaniz Fatima Binte Hossain（Postdoctoral Researcher, Columbia University）

\*\*\*\*\*

## 歓喜の夜

本多健太郎（2010年3月 生物圏科学専攻修了）  
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 主任研究員

紆余曲折を経て、博士論文の研究テーマが最終決定したのはD1の冬でした。それは、幻の魚と呼ばれるイトウの行動をバイオテレメトリーで長期間追跡するというもので、私の後輩がすでに修士論文のテーマとして取り組んでいたものを引き継ぐ形になりました。後輩のフィールドワークにはほとんど同行していましたが、その中で、必須でありながら最大の難関だったのが、発信機を付けるための「イトウを捕まえる」ことでした。イトウは簡単に釣れる魚ではなく、かといって漁業対象種でもないため、漁師さんから分けてもらうこともままなりません。思ったように捕れず、途方に暮れ、二人して涙したこともありました。。

しかし、その後輩は少ないながらも何とかイトウを確保し、無事に卒業することができました。次は自分の番です。D論にするにはそれなりの数（目標15尾）のイトウを揃える必要があります。狙うのは、春に産卵場のある河川上流域から産卵を終えて下流に降ってくるイトウです。イトウはサケ科ですが、産卵期は雪解け後の春で、サケのように産卵後に死にません。イトウが動くのは夜のため、トラップを仕掛けて夜通し待ち構えます。ただし、調査河川は春でも寒く、干したウェーダーがパリパリに凍ります。

2008年4月25日、その春初めてトラップを設置し、心臓をバクバクさせながら夜になるのを待ちました。22時頃、1回目のチェックのためトラップに向かいました。トラップの中を見た瞬間、「うわあー！！！！」。80cmを超える大物を含め、11尾も入っていたのです。叫びました。こんなに心が躍った瞬間はありませんでした。翌朝、9尾を選び発信機を付けて放流しました（写真）。放流直後には「ちゃんと生き抜いて良いデータになってくれよ！！」と手を合わせていたことを覚えています。チャンスは一年に一回でやり直しはできません。しかし幸いにも、翌日以降に捕獲・放流した6尾と合わせて、イトウたちはD論に足る素晴らしいデータを提供してくれました。再会できるものなら愛でてやりたいです。

最後に、イトウは「湿原の王者」などとも称されますが、絶滅危惧種であり、種としては極めて脆弱です。地球温暖化が進行する中、冷水環境を好む彼らを今後どのように守っていくのかを探ることは環境科学を専攻する者の使命と考えています。



発信機を付けたイトウを放流する筆者

## これからのインフラ整備における地球環境の重要性

日本海洋コンサルタント株式会社 鈴木裕太

私は、2013年に地球圏科学専攻 大気物理学・気候力学コースを修士課程で修了しました。

在学中は海洋・海氷動態研究室でオホーツク海のポリニヤについて研究していました。指導教員の大島先生を始め、コースの先生方やスタッフの皆様や先輩・同級生・後輩には大変お世話になりました。

在学時代は研究に加え、授業でスイスでの氷河実習や母子里での雪氷実習などフィールドワークの経験もさせていただき、実際に自分の目で体験する大切さを学びました。

また、校内でのジンパやソフトボール大会に参加するなど、勉強以外でも充実した学生生活を送ることができました。

卒業後は建設コンサルタントの会社に入り、海洋や港湾のインフラの設計をしています。

学生時代の研究から引き続き海洋つながりということで、在学中に学んだ海洋力学・気候力学の知識を活かしつつ、将来の世代に残る土木構造物を整備・検討しています。

毎日、インフラ整備に携わっていると、地球温暖化による海面上昇や大型台風の発生や大雨の頻発化が問題となることも多く、在学中に学んだ地球環境の変化を考え続けることの重要性を常々感じています。また、実際に問題が起きている現場に行ってみないとわからないことも多く、自分の目で実際に現場を見るフィールドワークの体験も今になって活かしています。

環境科学院の皆様には、環境科学院ならではの体験ができることも多いと思うので、在学中に色々な体験をして、現在、そして将来に役立つ経験をしていただければと思います。



会社で参加した札幌リレーマラソン(筆者は写真中央赤い服)

## Hokkaido University gave me wings to fly

Kaniz Fatima Binte Hossain

Postdoctoral Researcher, Columbia University

Hello, Konnichiwa, I am Kaniz. I joined Hokkaido University in October 2015, as a master's student at Graduate School of Environmental Science with MEXT scholarship. After my master's course I pursued my Ph.D. in the same lab from 2017 to 2020, with the Mitsubishi Corporation International Scholarship. During my study in this university, I got the opportunity to improve my knowledge and research ability on the area of molecular toxicology and environmental science. My supervisor, Dr. Masaaki Kurasaki was an inspiring and student friendly professor. Without his kind supervision and cooperation, it was not possible for me to complete my research within 3 years. During my Ph.D., I received "Hokkaido University Frontier Foundation Nitobe Program for Graduate Students Scholarship", "Excellent student overseas visit program Award by Graduate School of Environmental Science, Hokkaido University" and "Excellent Research Award in 2018 by Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University". During my master's and Ph.D. periods, I attended several workshops and conferences in Japan and other countries, which helped me to have better understanding about my research, and broaden my vision. I also achieved the "Young Investigator Award" in 2018 by The 10<sup>th</sup> International Conference on Heme Oxygenase, Seoul, South Korea.

Apart from my research life, I had an amusing daily life in Sapporo. I studied Japanese language to learn basic conversations necessary for daily life in Japan, which was really helpful. I met a lot of people from different parts of the world and I made friends who will never be forgotten. To represent my own culture, I participated in 'International Cultural Festival' and the food festival 'Hokudaisai' several times. I was always attracted to nature and Japanese culture, so I traveled many beautiful places in Japan. I will always cherish those memories.

After my Ph.D., I joined Columbia University as a postdoctoral researcher. I believe Hokkaido University gave my career the wings to fly. I have pool of memories of Hokkaido University and hope to visit Hokkaido again.



発行：環境科学同窓会事務局  
〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目  
北海道大学 大学院地球環境科学研究院内  
Fax: 011-706-4867  
e-mail: [home-coming@ees.hokudai.ac.jp](mailto:home-coming@ees.hokudai.ac.jp)

Issuer: Environmental Science Alumni Association  
Office,  
Graduate School of Environmental Science,  
Hokkaido University  
N10 W5, North Ward, Sapporo 060-0810, JAPAN  
Fax: 011-706-4867  
E-mail: [home-coming@ees.hokudai.ac.jp](mailto:home-coming@ees.hokudai.ac.jp)

バックナンバーは同窓会HPでご覧に頂けます。

[www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html](http://www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html) (日本語)

You can visit our back issues page here:

[www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html](http://www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html) (English)